



視 察 研 修 等 報 告 書

令和7年2月18日

坂井市議会

議 長 戸 板 進 殿

会 派 名 政新さかい
報 告 者 辻人志

1. 日 時 令和7年1月29日（水）～令和7年1月31日（金）
2. 視察研修先
 - (1) 長崎市役所（長崎県長崎市）
 - (2) 柳川市役所（福岡県柳川市）
 - (3) ボートレーサー養成所（福岡県柳川市）
3. 視察研修内容
 - (1) 長崎市議会のICT化の取り組みについて
 - (2) 柳川市の観光振興策について
 - (3) 競艇選手育成の取り組みについて
4. 参加者 辻人志
(政友会川畑孝治議員・伊藤宏実議員、志政会古屋信二議員、
上坂健司議員、後藤寿和議員同行)

5. 内容詳細及び所見・感想等

(1) 長崎市議会のICT化の取り組みについて

長崎市議会におけるICT化の取り組みについて、議会事務局の職員さんからレクチャーを受ける。長崎市議会では令和5年1月に現在の庁舎に移転するに合わせ本会議や議会運営委員会などの会議において議員や理事者が発言した内容をリアルタイムで文字起こしができるAI会議録システムを導入するとともに、議場や傍聴席に大型モニターや大型スクリーンを設置している。

傍聴席にある大型モニターには聴覚に障害がある方をはじめ、多くの方がより議会を傍聴しやすいよう字幕が表示されるほか、議長席の後ろの大型スクリーンには議員が一般質問などを行う際の説明用資料が表示され、傍聴者の理解度アップにつながっている。さらに議会のホームページで常任委員会において使用した資料も公開されており、これによって市民の会議録の理解度が向上したとのことだった。

また、本会議がケーブルテレビとインターネットで生中継されている。録画配信もケーブルテレビ、インターネット、YouTubeで配信している。

AI会議録システムを導入したことによって、会議録を作成する日数が大幅に短縮されたほか、急な反訳が必要になった場合に、事務局でもすぐに確認ができるなどの効果が得られたようである。

【所感】

議場を見学させていただいた際に、AI会議録システムを使った発言のリアルタイム字幕表示を見せていただいたが、正確に発言内容が表示されており、聴覚障害者の方はもとより一般傍聴者の理解度アップになっていることを感じた。

AIの学習能力によって方言についても次第に変換できるようになるそうで、坂井市議会でも対応が可能のようである。

坂井市議会と同様なシステムを導入した場合の費用とその効果については、長崎市の規模と一概に比較はできないが、現在の予算に比べると大幅にコストが増えることになるため、どの業務を改善していくかは今後議会改革特別委員会において慎重な議論が必要だと思う。

(2) 柳川市の観光振興策について

柳川市は市内を約930kmの掘割（水路）がめぐる「水郷のまち」であり、川下り（お堀めぐり）観光が有名である。また、福岡県内でも有数の農業のまちでもあり、有明海で生産される海苔は全国2位の生産量を誇っている。

今回は柳川市の観光施策全般について、産業経済部観光課の職員さんからお話を伺った。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことで、観光客入り込み数はコロナ以前の水準に戻りつつある。特に川下りの利用者数は、利用割合の高い外国人観光客の回復に伴いコロナ以前より増加している。外国人観光客数は、訪日外国人観光客による個人旅行の受け入れ制限が段階的に緩和されたことにより増加しており、特に台湾からの比率が大きく伸びている。

体験観光や滞在型観光など滞在時間を伸ばす取り組みとして、着地型観光推進事業と産官学連携事業を行っている。着地型観光推進事業では、柳川ならではの地域資源を生かし、観光従事者だけでなく地域住民と一緒に、新たな体験やまち歩きなどの地域密着型商品を開発し、既存の川下りやうなぎのせいろ蒸しなどの地域資源と1つにして柳川の魅力を打ち出すことで、交流人口を増やし、滞在時間を延ばし、地域への消費を増やすことを目的としている。

産官学連携事業では、九州産業大学と連携し、サテライト大学の開講や、柳川市をフィールドとした授業を実施している。九州産業大学の千副学長を委員長とする柳川観光まちづくり推進委員会において議論を重ねた上で提出された提言書を基に、5つの重点課題と13の施策整理からなる柳川観光指針を策定している。

主な事業として、観光客受け入れ環境整備として多言語化推進事業を、時代の変化に応じた課題の解決を図るためにDMO推進事業を重点項目に据えている。

また、有明海に面した干拓地にある「柳川むつごろうランド」は、様々な体験型事業を展開しており、令和5年度には市内外から約8万6千人が訪れている。

【所感】

柳川観光の特色は体験型観光が充実していることだと思う。有名な川下りとうなぎのせいろ蒸し・まち歩きをセットにすることにより、滞在時間を延ばしている。また、むつごろうランドでは昔ながらの製法で海苔を作る海苔すき体験や昔ながらの漁法でうなぎやヒラメ、小エビを捕獲するくもで網体験、釣り針でむつごろうをひっかけるムツかけ体験など幅広い体験型観光を展開している。

柳川市の観光施策は、温泉もなく都市でもない地区であっても、努力次第で国内外から多くの観光客を呼び込むことができるという見本だと思う。坂井市においても、今後一段と体験型観光を推し進めていく必要性を感じた。

(3) ボートレーサー養成所の視察

ボートレーサー養成所は柳川市郊外の干拓地にあり、現在約50名の訓練生がプロのボートレーサーを目指して訓練に励んでいる。

施設は訓練生が毎日寝起きし食事や入浴を行う1号館、主に現役の選手や審判員・検査員の定期訓練に使用する2号館、さらには実際のボートレース場と同等の施設・設備を兼ね備え、より実践に近い訓練を行う競技棟、審判棟、整備棟、水処理施設などから構成されている。

訓練生の一日は朝6時の起床から夜10時の消灯時間まで徹底して管理されており、定期的に身体検査や体重測定を実施して身体面も厳しくチェックされている。ここで得た経験があつてこそ、プロに求められるハイレベルな自己管理能力を身に付けることができるという。

ここでは単にボートレーサーとしての技術を習得するだけでなく、1年間の養成期間を通じ、社会の規範を教え、我慢を覚えさせることにより自我を熟成させ不撓不屈の精神を涵養し、礼と節を重んじる人格者を育成することを目的としている。

また新人選手の育成だけでなく、現役の選手や審判員・検査員の養成も行っているのが特徴で、どんな一流の選手であっても1年に一度ここで他の選手と一緒に寝泊まりして定期訓練を受けなければならない。

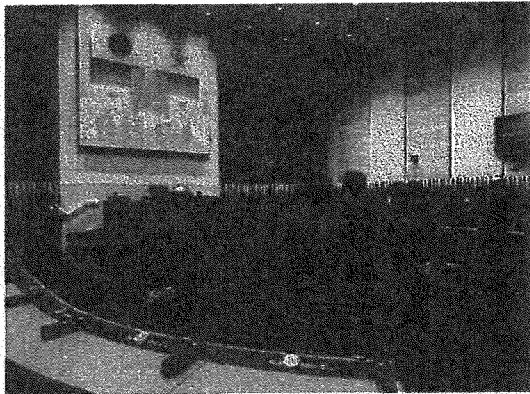
公正と安全を尊び、業界の発展に尽くす業界人を育成するとともに、誇りと使命感をもって、社会の発展に貢献する人材を育成する場である。

【所感】

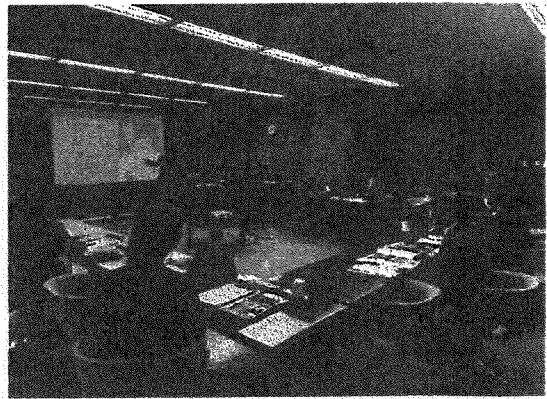
訓練生はボートレーサー養成所に入所する際に厳しい倍率の選抜試験を経て、入所してからの1年間は全寮制で同期の仲間と同じ釜の飯を食べ、娯楽や恋愛も許されず、切磋琢磨しながら厳しい訓練生活を送っている。

みんな夢への思いは同じだ。道は険しくても、その先にある大きな夢と希望に向かって頑張っていると思う。

6. 添付資料



▲長崎市議会(議場)



▲柳川市役所



▲ボートレーサー養成所

会 派 内 供 覧	

